

新型コロナウイルス感染症について ver.16

R3/1/31 院長

★コロナ検査再考

流行初期はPCR検査のみでしたが、現在は抗原検査も加わり、さらに唾液での検査も行われるようになりました。また様々なところで自費検査も行われている現状で再度検査の確からしさとその結果の賢い考え方についてお話しします。

★検査の種類と検査に要する時間¹⁾

検査法	実施時間
リアルタイムRT-PCR	2~4時間
ランプ法(LAMP)	1時間
抗原定性	30分
抗原定量	40分

現在行われている検査法で一番精度が高いのがリアルタイムRT-PCR検査です。一般的にPCR検査と言った場合はこの検査を意味します。1/26時点で厚労省が認可したPCR法の検査キットは全部で21種類あります。個々の検査の精度（どの程度正しい検査なのか）に関しては現在精査中で本来であれば今月中に結果が公表されるはずでした。

表の4種類の検査の精度は以下の順になります。

リアルタイムRT-PCR>ランプ法>抗原定量>抗原定性

実際に検査を受けた場合、どの検査だったのかでその結果の解釈はかなり異なります。例えば**抗原定性検査（インフルエンザの迅速検査と同様の検査）**はかなり感度が低いため陰性であったとしてもコロナではない保証には全くなりません。

★検査陰性は信用していい？

最近コロナの検査の感度（コロナ患者を検査陽性と判定できる確率）・特異度（コロナでない人を検査陰性と判定できる確率）に関する初めての大規模な検査結果が公表されました²⁾。**鼻咽頭ぬぐい液（鼻に細い検査棒を入れるもの）PCR検査が感度73%で唾液PCR検査の感度が62%**という結果でした。つまり**鼻からの検査では約3割、唾液検査では約4割のコロナ患者が陰**

性と判定（偽陰性）されてしまうのです。コロナを疑う症状がある場合、1回のPCR検査陰性だけではコロナを否定する根拠にはならないことは非常に重要です。このところが多くの人に伝わっていないのが現状です。最近もコロナにかかったある芸能人が”熱が出て検査受けたら陰性だったので安心していましたが・・・”とコメントしていましたが、再度言いますが1回の検査陰性では安心できません。

2回陰性であっても9%の確率で偽陰性です。3回陰性で2.7%のコロナ患者は偽陰性と判定されるのです。唾液検査ではさらに偽陰性の確率が高まります。

★新たな検査法

PCRや抗原検査以外で有用な検査法として胸部CT検査と抗体検査があります。感度はそれぞれ91%と86%とかなり高い数字です。国内ではまだ保険適応された抗体検査はありませんが、実臨床ではすでにこの2つの検査をPCR検査に組み合わせて診断しています。

★自費検査

無症状の方が海外渡航に必要な陰性証明書のために行ったりするものです。様々な医療機関や検査機関が行なっていますが、厚労省に認可された検査法で行なっていることを公表している所が安心でしょう。検査結果の正確性は検査法次第なのですから。何らかの症状がある場合は発熱外来などの医療機関での検査となります。病院にかかりたくないから症状があるのに自費検査で済ませることは絶対にしないで下さい。コロナの診断は今まで述べてきたようにPCR検査だけではないのです。

”人々はこの死亡率が正常なものであるかどうかを知らなかったのである。この種の正確な知識というものは、明らかに興味をそそるものであるにもかかわらず、人々が決して心向けようとしなないものでさえある。”
アルベール・カミュ 『ペスト』

参考文献

- 1) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)病原体検査の指針第3版
- 2) Boger B,Fachi MM,et al.Systematic review with meta-analysis of the accuracy of diagnostic tests for COVID-19.Am J Infect Control.2021 Jan;49(1):21-29